

飛躍

TOKAI UNIVERSITY TAKANAWADAI JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

HIYAKU

第305号



東海大学附属高輪台高等学校・中等部 学校報

●発行日/2011年12月1日

●発行者/東海大学附属高輪台高等学校・中等部 校長・黒坂道生

「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え

Cultivate your thoughts in your early days

若き日に汝の体躯を養え

Nurture your body in your early days

若き日に汝の智能を磨け

Develop your intellect in your early days

若き日に汝の希望を星につなげ

Aim your hopes towards the stars in your early days

TOP*NEWS

吹奏楽部 全国大会銀賞受賞

合唱祭(中等部)開催

情報通信学部 新2号館完成



2年連続出場 全日本吹奏楽コンクール



SSH成果報告会 (3年 課題研究ポスター発表)



情報通信学部 新2号館屋上庭園

第3回 中等部合唱祭開催

10月31日、中等部合唱祭が開催されました。各クラス、この日のために心を1つに練習を重ねてきました。それぞれがさまざまな思いを胸に金賞を目指して頑張ってきました。その結果、見事金賞を受賞した3年B組、そして指揮者賞、伴奏者賞を受賞した生徒にコメントをもらいました。受賞できなかったクラスもクラスが団結したこの経験を生かし、今後更に素晴らしいクラスにしていってほしいと思います。

☆3年B組 金賞おめでとう☆

上野 汐風

3年B組 千代田区立和泉小学校出身

ありがとう。

まずは、3年B組の一員として金賞をいただけたことを光栄に思います。練習していく中でいろいろな問題が出てきました。やる気のない人たちがいて、クラスがバラバラになりかけたり、1回1回周りの人と話して練習が進まなかったりしました。特に当日の朝は全然まとまらなく、練習もままならない状況で本番に臨んでしまいました。他のクラス曲が1曲ずつ終わっていき、緊張が高まる中、私はもう涙が流れそうでした。「大地讃頌」を歌い終わり、自分の席に戻ると自然と涙が流れてきました。今までの努力、3年B組45人で歌い切った達成感、色々なことが思い出され、涙が止まりませんでした。

結果発表は銅賞から始まり、金賞で3年B組が呼ばれた時、本当に「3年B組で良かった」と思いました。3年間合唱祭をやってきて、初めての金賞で心にそして記憶に残る最高のステージになりました。

☆指揮者賞受賞

鈴木 美咲

2年B組 川崎市立東住吉小学校出身

今年、指揮者賞をいただきました。私が賞をとれたのも、クラスの皆や先輩方の応援があったからこそだと思っています。この賞は私1人ではとれなかったと思います。昨年度も指揮者賞をいただいて、それも皆のおかげだと今も思っています。正直、皆の支えがなければ、ここまでできなかったと思います。来年、私は3年生になります。今まで指揮者として2年間賞をいただきました。来年も指揮者に立候補して、3冠をねらえたらと思っています。

☆伴奏者賞受賞

堀川 翔平

3年A組 江東区立第一亀戸小学校出身

中等部生活の思い出がまた1つ増えました。クラスが1つになれる最後の行事、合唱祭。クラスのためにできる仕事は伴奏しかありませんでした。しかし、歌声を支えなくてはいけない伴奏が、いつしか足を引っ張っていました。そんな僕の伴奏を変えたのは、指導の先生方、クラスと吹奏楽部の仲間たちの応援でした。だから、賞をいただけたのも皆の支えがあったからだ、と思います。そんな仲間たちと過ごせる残りの時間を大切にしたいです。



受賞おめでとう!!

金 賞：3年B組

銀 賞：3年A組

銅 賞：2年A組

指揮者賞：2年B組 鈴木美咲

伴奏者賞：3年A組 堀川翔平

2011年度学校運営方針⑥

11月15日、16日、2011年度第2回一斉公開授業が行われました。たくさんの保護者の方々をお迎えし、授業を見学していただき、忌憚のないご意見を伺うことができました。また、『飛躍11月号』で紹介させていただいたベストティーチャー・タイプAの授業をご覧いただき、ベストティーチャーの選出をしていただきました。

また、24日には『第3回 生徒による授業評価アンケート』を実施し、後期中間試験までの授業の評価を受けました。それぞれの授業担当者は前期に受けた授業評価アンケートによる問題点を改善できたでしょうか。まだ改善がなされていない分野に関しては、今後いっそうの努力を重ねていきたいと思っております。

全授業を公開し、研究授業・公開授業へ積極的に取り組む

- ・年間を通じて、常に授業を公開する。
- ・授業見学がしやすいように、定期的に年2回3日間、一斉公開授業日を設定し実施する。

「生徒による授業評価アンケート」の結果を受けて、授業改善の期間と数値目標を設定し、組織的(各教科)な授業改善に努める

- ・教員の授業自己点検を行うと同時に、「生徒による授業評価アンケート」の結果から授業改善の期間と数値目標を設定し、組織的(各教科など)な授業改善に努める。
- ・授業改革・授業評価の推進と定着をはかる。

アンケート結果の自己分析 ⇨ 改善目標の設定 ⇨ 生徒への説明 ⇨ 授業改善 ⇨ 信頼

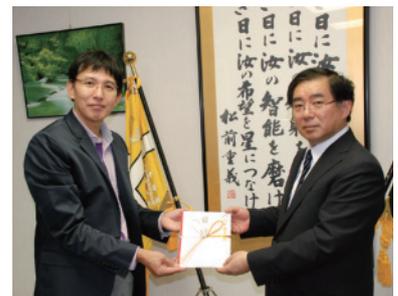
建学祭 バザー・けやき屋食堂 収益金を寄贈していただく

後援会の皆様のご協力に感謝いたします。生徒に還元させていただきます。

今年の10月8日(土)・9日(日)の両日、よい天候にも恵まれ、無事に建学祭を終了することができました。準備も万全に、来校されるお客様に喜んでいただけるよう、生徒・教員・後援会が1つになって行った建学祭でした。毎年人気の後援会の「バザー」と「けやき屋食堂」から、今年も収益金として139万円余りという多額のご寄付をいただきました。昨年度、この収益金では、図書館AVルーム機器一式(22インチ液晶テレビ、ブルーレイディスクプレーヤー)と食堂用ティーサーバー(給茶器)を購入させていただきました。ますます図書館や食堂の環境も充実してきました。

毎年のごことではあります、本年も多くの保護者の皆様にご協力をお願いして、バザー用品を抛出していただきました。この場をお借りし、御礼を申し上げます。また、後援会の委員の皆様には、

建学祭当日のバザーの値付け・販売、けやき屋食堂での調理・運営に多大なるご協力をいただきました。大きな収益はその賜物であります。皆様のご厚意をありがたく頂戴し、今年度もぜひ生徒諸君に還元できるものをご購入させていただきたいと、考えております。さまざまな方面から援助していただき、本当にありがとうございました。



中等部 1 学年 だより

初めての建学祭

中等部1年生には数多くの学校行事があれど、建学祭ほど大規模なそれはまれなこと。学級担任と一緒に企画を立て、みんなで協力をして作り上げるという建学祭は、生徒諸君にとっては初めてのことでした。10月8日(土)・9日(日)の2日間に行われた建学祭を振り返ります。

お客さんのための2日間

川村 洋平

1年A組 千葉市立横戸小学校出身

建学祭初日の帰りに先生から「解散」と言われた瞬間から、とても緊張しました。自分自身が建学祭のスタッフとなって、クラスの展示に携わるのが初めてだったからです。しかし、自分のシフトではない時に、生徒たちが各ブースを楽しんでいるのを見てびっくりしました。各ブースをいろいろ回ったおかげで緊張がほぐれ、ベストの状態です。お客さんの接待を1回もしたことがないので不安でした。

1日目のいろはカルタの係りでは、B組の人とペアになりました。うまくいかなくて、ペアやお客さんに迷惑をかけてしまうことが多々ありました。でも、お客さんは「楽しかったよ」というような心強い言葉をかけてくれて、すごくありがたかったです。

2日目も1日目と同じような状況でした。ペアは気心の知れた友達だったので、コミュニケーションもよくとれて、お客さんが楽しんでくれたようでよかったです。

今回の経験を生かして、来年の建学祭もしっかりと頑張ろうという気持ちになりました。

建学祭初体験

三浦 智子

1年B組 墨田区立曳舟小学校出身

私は建学祭開始前まではずっと、「あまりお客さんは入らないだろうな・・・」とか「上手にできるかな?」「建学祭って楽しいのかな?」などと心配でした。しかし、準備の時に皆で力を合わせて手伝ったりして、だんだんと自分の心の中は、「こんなに頑張ったから楽しいぞ」という気持ちになりました。

建学祭当日は、たくさんの人たちが見学に来てくれてうれしかったし、自分も友達と一緒に大きな声を出して呼び込んでいました。声をかけるにつれ、たくさんの人たちが入室してくれて、なかには「一生懸命だったから入る」と入室してくれたお客さんまでいました。

私が、建学祭を通して感じたことは、頑張りは人に伝わることです。頑張って損することは何もないし、頑張ったら頑張っただけ自分に良いことが返ってくると思います。そのことを胸に秘めて、次の合唱祭もクラス皆で力を合わせて努力して、好結果を残せたらうれしいので、絶対にあきらめずに頑張りたいです。



準備中



おいそ〜



帰れま10実施中



建学祭? ハロウィーン?



われらの看板



無事終了

中等部2学年だより

☆クラスが団結した合唱祭☆

10月31日、中等部合唱祭が行われました。各クラス、様々な思いを胸にこの合唱祭に臨みました。2年A組、B組それぞれの思いを書いてもらいました。

心を1つに

野村 浩輔

2年A組 江戸川区立第二葛西小学校出身

僕たち2年A組は「HEIWAの鐘」を歌いました。もうすぐ担任の先生が産休に入ってしまうということで、みんな「金賞をプレゼントしよう」という気持ちで練習してきました。結局金賞はとれず銅賞になってしまいました。もちろん先生に金賞をあげられなかったという申し訳なさや悔しさはありましたが、皆で心を1つにして頑張っ歌を歌ったことによって、気持ちを伝えられたと思います。

練習しているときはたくさんの注意点があって大変でしたが、友達と協力しながら克服していくことができました。また、誰1人として練習を嫌がらずに歌い続けられました。

本番はとても緊張しましたが、大きな声で自信を持って歌えました。また、しっかりと気持ちを込めて歌えたと思います。

今年の合唱祭では金賞をとることはできなかったけれど、皆で「先生のために金賞をとろう」という同じ目標に向かっていくことができ、より一層団結力のあるクラスになったと思います。

自分としての全力

湊之上 伶央

2年B組 横浜市立菊名小学校出身

僕にとって今回の合唱祭は良い合唱祭になりました。なぜなら、去年は自分の力をすべて出せなくて、全力で歌えなかったからです。たとえ賞がもらえなくても自分が全力で歌って、力を出し切れたため良い合唱祭になりました。

今年は昨年よりもたくさん練習しました。そのおかげで本番でも声が出ました。そして、その練習も毎日嫌々やるのではなく、みんなが良いムードで行うことができました。

歌った曲は「明日へ」という曲です。この曲はとても良い曲です。人はどんなことがあっても、明日を迎え、その次のステップに強い気持ちを持って進んでいるものだということが、この歌詞には表れています。僕はこんな強い心を持っているのだと自問自答しながら歌いました。

以前は本番が大事だと思っていました。しかし、終わった後、考えてみると本番のたった1回よりも、何回も何回も練習し、よりうまくするように努力することの方が大事だと思うようになりました。

☆建学祭：私たちが展示を担当しました〈Part 2〉☆

前回、建学祭の展示を担当した生徒たちをご紹介しました。今回はその第2弾です。短歌や心温まる本の紹介、鶴のアート、理科の自由研究の展示などを行いました。



お客さんに「幸せを感じる時」を書いてもらいました



鶴のアートが見事完成!



展示方法をしっかり話し合いました!

中等部3学年だより

最後の合唱祭

今年の合唱祭は中等部3年生にとって、最後の合唱祭でした。そのため、クラス全員が団結し、合唱祭当日を迎えました。しかし、当日を迎えるまでさまざまな壁にぶつかりました。しかし、その壁を乗り越え、見事3年生が金賞・銀賞を受賞しました。合唱祭を通して、残りの中等部生活もクラス・学年でより良い思い出を作ってくれたいと思います。

心に残った合唱祭

中川 舞香

3年A組 大田区立赤松小学校出身

今年の合唱祭は、とても心に残りました。中等部最後ということもあり、3年間の合唱祭の中で、1番みんなの気持ちがまとまった合唱祭だったからだと思います。

1つにまとまるまでは、とても大変でした。合唱祭の1週間前に先生から、「クラスで主体的に練習していい賞を取るか、練習しないでぶっつけ本番にするか決めなさい」と言われ、合唱をするのは先生ではなく、私たちなんだということに改めて気づきました。先生に頼るのではなく、吹奏楽部や級長・副級長がみんなをまとめ、みんなの気持ちも1つになりました。

本番では、金賞ではなく銀賞でとても悔しかったです。しかし、堀川君が伴奏者賞を受賞しました。2つも賞をいただけるなんて、これは3年A組のメンバー1人ひとりが自分の仕事を頑張った結果だと思います。

金賞ではなかったけれど、最後の合唱祭でクラスのみんなが、また一歩成長できました。クラス全員でまとまって頑張る行事は、これで最後だと思います。とても素晴らしい合唱祭ができて、本当によかったです。

感謝

新保 孝久

3年B組 江東区立第三大島小学校出身

10月31日に、僕たちは最後の合唱祭をやりました。

結果からいうと、僕たちは金賞を取ることができました。僕は1、2年生の時、金賞を取ったことがなかったので、すごくうれしかったです。うれしかったのは、クラスみんなが1つの目標に向かって努力を積み重ねてきたからだと思います。みんなの気持ちがバラバラで、練習もろくにしていなかったら、たとえ金賞だとしてもあれほどのうれしさを感じることはできなかったと思います。

僕は、最初は正直なところ、そこまで金賞が欲しいわけではありませんでした。みんなの迷惑にならないように練習していました。ですが、日を重ねるにつれ、「やるならば最高のものにしよう」という思いが強くなってきました。そう思えたのも周りのみんなの気持ちが伝わってきたからです。最後の合唱祭で僕は良い思い出ができました。僕に思い出をくれたみんなに感謝をしています。



3-A 銀賞!!



3-B 金賞!!



みんなで力を合わせて

高校1学年だより

12月になり、1年生の今のクラスで過ごすのも残り約4か月となりました。今月は、学年主任の米谷先生からと各クラスの級長さんに、今までを振り返ってクラスで変わったこと・成長したこと、残りの約4か月をどう過ごしていきたいかについて書いてもらいました。

習慣

学年主任 米谷 昭人

入学してから8か月が過ぎました。中学生のころと違った習慣がついてきたと思います。その習慣は良い習慣でしょうか？ 悪い習慣でしょうか？ 良い習慣がついてきたと思う人は、その習慣を定着させてさらに良い習慣を作れるようにしましょう。悪い習慣がついている人は、自分に厳しくしてその習慣をやめましょう。残りの高校生活をより良くするために、皆さん良い習慣を心掛けていきましょう。

級長から一言

1組 酒井 里紗

東海大学付属高輪台高等学校中等部出身

4月から振り返ってみると、初めはクラスとしてまとまりがありませんでした。しかし、スポーツ大会や体育祭などの行事を通して、みんなで協力するうちに、まとまりが出てきました。残りの3か月、協力し合う姿勢を大切にして、さらに良いクラスにしたいと思います。

2組 青沼 哲

足立区立東綾瀬中学校出身

高校生活やクラスにも慣れて楽しい学校生活が送れていると思います。2組はとても明るくて、団結すればとても素晴らしいクラスです。そんな2組での生活も半分を切ってしまいましたが、残りの半分もいい思い出をたくさん作りたいと思います。

3組 沖本 健

市川市立南行徳中学校出身

自分が3組の級長になった時は、口が悪く、思いやりのないクラスだったと思いました。ですが、いつの間にかクラスの雰囲気は良くなっていました。自分は、最初に比べると、クラス全体が1人ひとり支え合い何倍にも成長していると思います。

今のクラスは他のクラスに負けないものをたくさん持っています。ですが、団結し合い、残りの4か月の記憶として鮮明に残るものになるよう、過ごしていきたいです。

4組 伊藤 将希

板橋区立高島第三中学校出身

1年4組の今までを振り返ると、授業態度が一番変わったと思います。最近、非常に良い雰囲気です。授業に取り組んでいます。残りの3か月、クラス目標である「けじめのある生活」をし、みんなで団結してもっと良いクラスにしたいと思います。

5組 藤澤 英子

東海大学付属高輪台高等学校中等部出身

この5組で8か月過ごしてきて、感じられる変化はクラスがにぎやかになったことです。休み時間は静まりかえっていたのに、今では友達同士で話し合ったり、ゲームをしたり、とても盛り上がっています。最近、授業が始まってから教室に来たり、遅刻する人が増えてきたり、たるんできました。もうすぐ学年が上がるので、残りの3か月は、けじめをつけたいと思います。

6組 宮坂 慎太郎

横浜市立今宿中学校出身

入学当初はクラスの雰囲気も暗く、バラバラに会話をしていました。けれども体育祭や建学祭を経て、みんなが本気で取り組んだことで良い絆が生まれ、仲良くなれたと思います。来年はクラス替えをするので、1年6組というクラスも残りわずかですが、これからも絆を深めていきたいと思っています。

7組 三ヶ尻 京平

春日部市立大沼中学校出身

僕たちのクラスはすごく元気がある人が多くて、クラス目標である切り替えがまいちできていません。しかしその元気で体育祭は優勝することができました。残り4か月に切り替えするように意識し、最高の期間にして、級長としてクラスをまとめたたいです。

8組 中井 勝大

東海大学付属高輪台高等学校中等部出身

クラス目標は「一致団結1-8nevergiveup」です。建学祭で「ソーラン節」を踊ったとき、クラス委員の頑張りによってクラス中の協力する姿がありました。そのときの気持ちを忘れず、級長として、8組の1人として、残りの4か月も目標を大切にして過ごしたいと思っています。

9組 中山 きひろ

品川区立荏原第一中学校出身

私たち9組はこの約8か月間で、積極的な姿勢とプレゼンテーション能力がとてもよく身についたと思います。最初はしらけていた教室やぎこちないプレゼンテーションも、今思えば良い思い出です。残りの4か月間も悔いが残らないよう、やるべきことをよく考えて行動していきます。

高校2学年だより

付属生のためのオープンキャンパス

11月12日(土)、「付属生のためのオープンキャンパス」が東海大学湘南校舎であり、高校2年生全員が参加しました。全体会の後、自分の希望する2つの学部・学科の講義を聴きました。この講義の感想を下に載せました。三者面談も終わり、進路決定しなくてはいけない時期になりました。このオープンキャンパスは、多くの生徒が進路について真剣に考えるきっかけとなりました。

情報通信学部 情報メディア学科

今まで私はなぜ情報通信学部だけ高輪にキャンパスが置かれているのか疑問に思っていました。しかし、今回の説明会でなるほどと納得した点がいくつもありました。その中でも特に関心を持ったのが、都心であることを利用して企業と合同した研究を行うこと、そして最先端の技術を学ぶことができるという点です。時代の流れや変化からわかることですが、情報技術とは常に進化し続けていくものです。それについていくには適応力と現在の技術を知る情報が必要となります。その点でこの学部は講義で適応力を養い、一流の企業と合同で研究することにより最先端技術の状況を知ることができるのです。情報分野を学ぶにおいて、大変優れた学部・学科であると感じました。

理学部 情報数理学科

情報数理学科のテーマは、「数学も情報も学べる」だそうです。今回の講義では、このテーマを中心に現役大学生からゼミでやる内容について話していただいたのですが、どれも本当に素晴らしいものでした。ゼミではこんなものがあったら便利だな、楽しそうだなと思ったことや、自分が作りたいものを作ることができるのだそうです。先輩方が今取り組んでいるのはiphonで楽譜の写真を撮り、それをすぐ流せるというアプリらしいのですが、発想力もすごい、それを実行できるのもすごいと思いました。またこの学部では少人数制度を実施していて、1クラス7~8名の先生がついてくれるそうです。私は絶対にこの学部に入って、楽しく数学と情報を学びたいと思います。

体育学部 スポーツレジャーマネジメント学科

私は、講義を受けて本当にこの学科に入りたいと強く思いました。なぜなら、国内や海外での実習や演習が豊富で、自分たちだけで企画、運営できる場も多く、さまざまな経験ができるのではないかと考えたからです。そして充実した楽しい大学生活を送ることができるのでは、とも思いました。先生方もこうした活動を行うことに積極的であり、良い環境で学べるなと思いました。また、海外研修も含め、90分間英語で行う講義もあり、社会に出た時に重要となる英語を学べる機会が多く、スポーツレジャーマネジメント以外も学ぶことができるので、学習の幅が広がって大変興味深いなと思いました。卒業後の活動も多種多様で、自分の進みたい方向に行けるので、とても魅力的だと思いました。

教養学部 国際学科

国際学科ではその国の言語についてだけでなく、国際安全保障や国際平和、異文化コミュニケーションについてあらゆる言語を学ぶことができるというのが大きな魅力だと思いました。また、英語の必修授業が週4回と他の学部比べて多いのですが、その分語学力の向上が期待できそうだと感じました。その他にも、ESPという完全英語の講義や海外でのボランティア活動など、実践的な英語コミュニケーションについて学べることに對しても興味深かったです。さらに国際学科では、第二外国語もしっかり学べるので、より社会に出てから役立つ人間になれるのではないかと、ますますこの学科に進学したいと思いました。



全体会の様子



真剣に聴いて、大事なことを書きとめます

高校3学年だより

スポーツ大会

11月5日(土)に、本校アリーナにおいて高校3学年スポーツ大会が行われました。午前中に男女バレーボールと男子ドッジボール、午後には男女バスケットボールのクラス対抗戦が行われ、いずれも白熱した試合が繰り広げられました。残念ながら時間の都合上、最終種目の綱引きは行うことができなくなりました。

このスポーツ大会で、生徒たちの有り余るエネルギーを見せつけられました。そのエネルギーを、ぜひ残りの高校生活に活かしてください。

ありがとう、みんな

奥畑 涼平

3年4組 川崎市立川中島中学校出身

気がつけば今回のスポーツ大会は高校生活最後のイベントでした。僕たちはいつもと違う心境で戦場(アリーナ)に立っていました。過去のスポーツ大会での実績から考えれば、僕たちが見据える先は「頂点」のみでした。この日のために昼休みは他のクラスの生徒と切磋琢磨し、各々のレベルを高めてきました。結果は4組の総合優勝でした。種目での1位がなかったのに、総合優勝できたということは、みんなでつかんだ優勝といえるでしょう。卒業も間近で、クラスのみんなは別々の道を歩くこととなりますが、今回のことをみんなが忘れずにいてほしいと思います。

8組 準優勝!

酒巻 純一

3年8組 足立区立第十三中学校出身

高校最後のスポーツ大会で準優勝でき、本当にうれしく思いました。スポーツ大会の2週間前くらいからみんなで一生懸命練習したからこそ準優勝できたと思います。毎日昼休みに、アリーナでバレーボールとバスケットボールの練習をしている姿がとても印象に残っています。怪我をした人もいましたが、やめる人はいませんでした。

私はバスケットボールに出場し、見事に優勝しました。試合後にみんなと一緒に喜んでくれたのはとてもうれしかったです。共に練習し、共に作戦を立て、共に戦った仲間たちと勝利を分かち合うのは最高でした。最後のスポーツ大会でみんなが1つになれたこと、そして、一致団結して勝てたことは一生忘れられない思い出となりました。



クラスの勝利のために!



行け、アタック!



ナイスシュート!



みんな頑張った!

2012年度東海大学付属推薦入学合格者決定 多くの生徒が希望の専門分野に進む

今年、東海大学へ推薦入学が決まった生徒は353名で、希望者の全員が合格しました。これは3年生の約86%です。進路指導部・学年の教員が一体となり、きめ細やかな指導を行った結果、多くの生徒が希望した分野への進学が決定しました。

「未来をつくる」

東海大学は、『若者が夢を探し、自らの未来を創造する場』で、北海道から九州まで全国8キャンパスにひろがる18学部78学科の総合大学です。この多様なフィールドには集う力があり、夢を形にしていけるエネルギーがあります。

今年度の付属推薦制度には、つぎの2点が導入されました。今まで8月に実施されてきた適性審査(教養学部芸術学科、医学部、看護系学科)が6月下旬に行われ、6月末に審査結果が発表されました。もう1つは、特別技能推薦に各校推薦枠3名が設けられました。これらによって、航空操縦学専攻を除くすべての学科が、特別奨励入学、特別技能推薦、特別学力推薦などによって夏休み前に内定されるようになりました。そして、8月に実施された航空宇宙学科航空操縦学専攻の適性審査合格者の2名も含めて、最終的に353名の生徒が、付属推薦制度によって希望する学部・学科に合格しました。

内定を受けた生徒たちは、夏休み前にそれぞれのキャンパスで保護者同伴による説明会と個別面談を受けました。そこで提示された夏休みの個別課題は、大学の先生方による丁寧な添削指導や高校への巡回指導などによって、大学での学びへとつながっています。

また、全員の生徒に、それぞれの進学先の学科から「研究レポート」の提出やインターネットを利用したe-Learning学習が指示されます。これらは、知的好奇心をさらに深めたり、目的意識をしっかりと持って入学し、大学での講義を理解する基礎学力の充実などを図るためのものです。3年生は、こうした入学前教育プログラムや特別講座に全力で取り組む最後の高校生活に臨みます。



●推薦状況

大学・短期大学	学部・校舎	人数
東海大学	文学部	48
	観光学部	23
	政治経済学部	39
	法学部	11
	教養学部	37
	国際文化学部	2
	理学部	12
	情報理工学部	3
	情報通信学部	33
	工学部	85
	海洋学部	11
	体育学部	20
	医学部	3
健康科学部	8	
小計		335
東海大学短期大学部		5
東海大学医療技術短期大学		2
ハワイ東海インターナショナルカレッジ		11
小計		18
総合計		353

栄光を星につなげ!!

吹奏楽部 第59回全日本吹奏楽コンクール

吹奏楽部部长 晝間 さよこ

3年2組 葛飾区立常盤中学校出身

私たち吹奏楽部は10月23日に行われた全日本吹奏楽コンクールに出場しました。全国大会に向けての練習の中では、内容の濃い充実した毎日を過ごすことができ、音楽の面でも精神的にも自分たち自身の成長に大ききつなげるものになりました。仲間と共に1つの目標に向けて練習した日々は、かけがえのないものとなりました。

結果は銀賞に終わってしまいましたが、得たものもあり、自分たちをもう一度見つめ直すきっかけにもなりました。そしてなによりも、本番後の大きな拍手の中で味わった感動は一生忘れられません。

これから3年生にとって最後の演奏会となる定期演奏会に向けて、演奏面でも、部活動としてもより良いものを作っていこうと思います。

全国大会に向けて思い切り練習に打ち込むことができたのも、先生方や生徒の皆さん、保護者の皆様をはじめとするたくさんの方々のおかげです。本当にありがとうございました。



TOKAI キャンパスメッセージ

今回は、このほど竣工した東海大学高輪キャンパス新2号館の紹介を兼ねて、情報通信学部学部長の中下俊夫先生と卒業生から高輪台高校へのメッセージをいただきました。

高輪校舎・情報通信学部の今

高輪校舎にある情報通信学部は、2008年4月に設置された新しい学部であり、情報メディア学科、組込みソフトウェア



工学科、経営システム工学科、通信ネットワーク工学科の4学科で構成されています。現在、1期生が4年生となり、4学年で約1,350名が在籍しています。新1号館と2号館が完成し、学生の皆さんは、新しい施設設備のもとで気持ち良く勉強しています。また、校舎の中には世界の大学でも類を見ないバーチャルリアリティーの実習施設もあります。さらに、2012年度には、新たに大学院(情報通信学研究科)が新設されることになっており、約30名の学生が進学予定です。

学部教育の特色としては、①実習を

情報通信学部 学部長 中下 俊夫

重視した実践的教育、②グローバル化に対応するための英語教育、③4年間の計画的キャリア教育、④大学院進学希望者のための高度専門教育、⑤学生の自主性を重んじた課外活動が挙げられます。なお、現在1期生の就職については、他の大学や本学の他学部と同様に大変苦戦していますが、それでも、他大学や本学他学部に比べて高い内定率を確保していると言えます(10月時点)。

あらゆる分野で不可欠となっている“情報通信技術”を学んで、社会で活躍してみませんか。

私が経営システム工学科を選んだ理由

情報通信学部経営システム工学科(高輪台高校2009年3月卒業) 渡邊 駿

私が皆さんと同じ高校生だった頃、学部選びに大変苦勞しました。そんな私が情報通信学部経営システム工学科を選んだ理由は2つです。

第1に「経営システム工学科」という言葉に惹かれました。とても単純な理由ですが、今まで何も考えていなかった私が、この学科で企業を経営できる能力をつけたい!!と思ったのです。企業に必要な情報管理と企業経営の力をつけるこ

と、更に経営に必要なシステムも同時に学べるということも大きな魅力です。

第2は新しい学部だからです。できて間もない、何もない学部ですが、裏を返せば自分たちで何でも作り上げることができるのです。現に私は高輪キャンパス野球部を1学年上の先輩たちと立ち上げました。何もない、ゼロからのスタートでしたが、今は部員も増え、サークルから部活動に昇格することができました。

今までの過程で得られた数々の経験は、今後役に立つだろうと感じています。

私は常に勉強と部活動で大きな目標と強い意志を持って学校生活を送っています。そうすることにより、他の学生の10倍も100倍も充実していると感じています。何かを創る、続ける、成し遂げるといった気持ちを持ち続け、最高の学校生活を送ってください。



新2号館外観



500人収容の大講義室

1・2号館渡り廊下

SSH 成果報告会を開催

2011年度SSH成果報告会を10月29日(土)に本校で開催しました。今年は土曜日の開催ということもあり、全国のSSH指定校をはじめ、東海大学および学園の高等学校から多くの先生方が出席されました。午前、本校のSSH活動5年間のまとめを説明後、公開授業が行われました。午後は、3年生の「課題研究ポスター発表会」を実施し、活発な質疑応答が行われました。また、SSH活動の成果普及に向けて4つの教員交流会(①英語科と連携してつくるSSH講座、②数学と理科の連携によるプログラム開発、③文系教員が関わるSSH講座、④アンケート集計・事務処理の手法)が開かれ、他校の先生方と意見交換がなされました。最後に、今回の成果報告会につきまして研究協議と講評がなされ、大きな成果を得て終了いたしました。

公開授業

1年:「科学英語プレゼンテーション」

Sabrina 先生と英語科教員で協力し、「日本に原子力発電は必要か不必要か?」というテーマで授業を行いました。Sabrina 先生からの原子力発電のメリット・デメリットについての講義の後、ディスカッションを行い、チームの意見をまとめて英語でミニプレゼンテーションをしました。

2年:「数学と物理の連携授業「ベクトルの合成実験」

ベクトルの合成実験を数学科と理科の教員で連携して行いました。ばねを使ってつりあいの状態を作り、ばねの長さを求める実験を行いました。普段は机の上で行う数学の授業を、実験をして物理的な現象から考察することを目標とした授業です。

知識も必要なプレゼンテーション

小林 春菜

1年9組 横浜市立中川西中学校出身

今回の科学英語プレゼンテーションでは、「原子力発電」について英語でグループディスカッションを行いました。また、サブリーナ先生による「原子力発電」についての講義も聞きました。今回初めてネイティブの先生のプレゼンを聞いて、私もこんなふうにプレゼンできるようになりたいなと思いました。英語プレゼンテーションだけでなく、原子力発電についても知ることができてよかったです。これから自分でも英語でプレゼンテーションを行うと思いますが、プレゼンテーション能力だけでなく内容についての知識も鍛えていきたいです。今後の授業も今回学んだことを生かしていきたいです。



力とベクトル

齋藤 祐里

2年10組 世田谷区立玉川中学校出身

私たち2年生は今回、「ベクトルの合成実験」の授業を受けました。実験の内容は、ひもの2か所にバネを2個ずつ付け、それぞれを別の方向に引っ張り、三辺の長さや角度を測り、残りの一辺の長さを求める、というものです。数学と物理の連携授業というので、ベクトルや力の合成が苦手な自分にとっては難しそうだと感じましたが、周りの先生に教えていただけたので、すぐに理解することができました。

今まで数学と物理は普段の授業では似ていると思うことはあっても、それらがつながっていると思うことはあまりありませんでした。しかし、今回の実験で数学と物理はとて深い所でつながっているのだと実感することができました。それと同時に、他にも根本的につながっているものを探したくなりました。

これからも、授業で学んだことを活用できる機会が増えればよいと思います。



3年:「科学倫理」

「日本はすべての原子力発電を2020年までに代替発電に切り替えるべきである。是か非か」という論題でディベートを行いました。グループテーマに「原子力」を選んだ2つのグループが、肯定・否定に分かれ、選手以外の生徒が審判役を務めました。判定結果の発表の後、東海大学教養学部の内田晴久先生から講評と解説をいただきました。

科学ディベート

矢野 遥香

3年9組 川崎市立川中島中学校出身

今回のディベートの論題は「原子力発電所は廃止するべきである。是か非か」という最近特に話題になっているテーマで、私は肯定側第一反駁を担当しました。先生やディベート同好会の友人からアドバイスをもらいながら、毎日放課後にチームのみんなと話し合いました。本番はクラスの人たちだけでなく、大学の先生や他校のSSH指定校の先生が見学されていたのでとても緊張し、思わずマイクを持っている手が震えてしまいました。ディベートを通して、原子力の仕組みを詳しく知ることができました。また、廃止するとどのような問題が起こるのか、それを改善するために考えられた代替発電やプルサーマル発電の新たな問題点について考えさせられました。これから、日本がどうなっていくのか心配ですが、これからのニュースに注目していきたいです。



SSH活動報告

10月10日(月)～14日(金)、International Student Science Fairに参加するために、3年SSHクラスの奥田さんと高田さんがタイに行ってきました。理科・数学を通じて全世界の高校生が交流しました。10月29日に広島で行われた「第3回女子生徒による科学研究発表交流会」と10月30日に大阪で行われた「第8回高校化学グランドコンテスト」には、3年SSHクラスの澁谷さんと菅沼さんが参加しました。研究テーマである「砂糖電池」について、ポスター発表を行いました。

BRIGHTEN OUR MIND, BRIGHTEN OUR WORLD

奥田 知熙

3年9組 大田区立大森第十中学校出身

私は、International Student Science Fair 2011 (ISSF2011)に参加しました。これはたくさんの国や学校から代表生徒が集まり、口頭発表やポスター発表を行うプログラムです。私は発表を行いませんでしたが、いろんな国の人の発表を見たり聞いたりできました。今までの私たちのポスターやパワーポイントとの共通点や相違点を見つけることができました。それを自分の発表で生かせたらいいなと思いました。また発表を聞くだけでなく、異国の人たちと話したり交流したりする機会があり、英語でのコミュニケーションの大変さを知りました。OCの授業や英語の授業での文法や構文も大切ですが、なにより伝えようとする気持ちの大切さを知りました。英語でのコミュニケーションは国内で練習するより、実際に海外へ行って直接外国の人たちと交流したほうが身につくと感じました。海外で異国の人たちと交流したり、英語での発表を聞いたり、とても貴重な経験ができました。機会があればまたこのような行事に参加したいです。



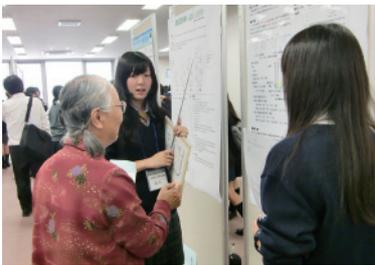
お世話係(Buddy)の生徒と訪れたエメラルド寺院で、タイ王室の歴史を学びました

発表して感じた研究の課題

澁谷 朋子

3年9組 横浜市立岩崎中学校出身

私たちは、「環境に優しい砂糖電池を作りたい!」ということで、過酸化水素水を用いた砂糖電池について研究してきました。そして今回、女子生徒による科学研究発表会と化学グランドコンテストに参加し、これまでの研究について発表してきました。今年3月に発生した震災により、予定されていた口頭発表もなくなり、卒業するまで外部の発表に出られるか不安でしたが、このような機会に巡り合えてうれしく思います。思い返せば、長時間の電圧計測や数々の失敗、ここ数か月は実験のやり直し、発表練習などと忙しい日々を過ごしていましたが、今思えば充実していたと感じます。研究発表をしてみても人に簡潔に伝える難しさを特に感じました。また専門の先生方からのさまざまな質問や意見もいただき、違う視点から自分たちの研究に向き合うことができました。他の学校の研究発表を聞くことで多くの刺激も受けましたし、学校内では狭くなりがちの視野も広く持つことができたので、貴重な経験だったと思います。



たくさんの先生から御助言をいただきました

2011年度 課題研究 研究内容

- | | |
|--|---|
| <p>物理</p> <p>二段式水ロケットの研究 岩田昌也、大江海斗、山脇伶王</p> <p>Y系超伝導体の作製条件と特性についての研究 内田紗耶、安孫子凌、中西雄大</p> <p>熱気球 田代桜子、谷口光輝、猪熊大志、篠田有作</p> <p>飛行機の機体要素と「飛行距離」の関係 内山寛之、伴野葵</p> | <p>地学</p> <p>太陽フレアの観測(Part2) 小藤佳奈、渡久平瑞帆、糸井一真、森一史、渡部竜成</p> |
| <p>化学</p> <p>砂糖電池 澁谷朋子、菅沼美由起、高田真理菜、吉田大輝</p> | <p>数学</p> <p>回文数の規則性 諸角有紗</p> <p>様々な場合におけるポーカールの確率 名取鼓太郎</p> <p>嘘を見破るには 大山桜、矢野遥香、前田しずか</p> |
| <p>生物</p> <p>タイリクバラタナゴのメスが好むオスの特徴 並木涼、藤城翔太郎</p> <p>ミジンコの走光性 奥田知熙</p> <p>植物は光の波長によって成長がどのように変わるのか 山本萌</p> <p>ゼブラフィッシュはLED光に対してどんな行動をとるか 本間桃子、菅野勝利、高木悠亮</p> <p>飼育環境でメダカの産卵 櫻井康裕、増田航大、矢野良一</p> | <p>情報</p> <p>画像処理と顔認識 滝澤巧樹、中河原優貴、二宮淳夫、林川翔</p> <p>本田祐輔、矢野琢弥、北出紘章、美馬優貴</p> |

お知らせ

高校3年生特別講座開始

自ら学び、探求する姿勢を大切に!!

期間

12月7日(水)～1月31日(火)

目的

大学の授業に備え、高校時代に身につけておかなければならない知識などを、これまでの授業とは別の角度から学ぶ。

大学では、1人ひとりの学ぼうとする姿勢が高校以上に大切です。学習に対するしっかりとした姿勢を身につけましょう。

行事予定

December 12月

January 1月

- 1日(木) 中等部スポーツ大会(午後:授業)
中間試験3日目(高1、高2) 卒業試験3日目(高3)
- 2日(金) 中等部校外活動
(1年:江戸東京博物館 2年:日本科学未来館 3年:国立劇場)
中間試験4日目(高1、高2) 卒業試験4日目(高3)
- 4日(日) 高校受験生・保護者学校説明見学会(10:00～)
- 5日(月) 生徒自宅学習日(高3)
- 6日(火) 答案返却日(高3)
- 7日(水) 朝礼[正制服着用] 短縮授業 特別講座開始(高3、～1/31)
- 10日(土) 中等部受験生・保護者学校説明見学会(10:00～)
- 14日(水) 木曜日の授業 中等部保護者面談開始(～1/24)
- 15日(木) 高校入試相談 生徒自宅学習日
- 17日(土) 保護者会(中3) スポーツ大会(高2、アリーナ)
- 20日(火) 校医相談日
- 22日(木) 冬期休暇前諸注意 大掃除(7限目)
- 24日(土) 冬期講習(～28日)
- 27日(火) 吹奏楽部第22回定期演奏会(新宿文化センター、～28日)
- 30日(金) カナダ中期留学(～2/28)

- 5日(木) HTIC中期留学[SHIP](～2/25)
- 6日(金) 新春懇親会
- 10日(火) 朝礼[正制服着用] 短縮授業
- 14日(土) 進学相談会(高2)
- 17日(火) 校医相談日
- 18日(水) 専門医によるカウンセリング
- 19日(木) 中2学年集会 高2学年集会
- 20日(金) 中等部入学試験願書受付開始(第1回～1/31、第2回～2/2)
- 21日(土) 中1・2英語検定(中3、高校希望者)
- 22日(日) 高校推薦入学試験
- 23日(月) 高校推薦入学試験合否発表 振替休日
- 24日(火) 高校推薦入学試験手続き 月曜日の授業
- 25日(水) 高校一般入学試験願書受付(～1/31)
- 26日(木) 生徒による授業評価アンケート 学年集会(高3)
- 27日(金) 漢字検定(希望者)
- 28日(土) スポーツ大会(高1、アリーナ)
- 31日(火) 特別講座終了(高3)

公開授業の様子(11月15・16日)



編集後記

7月に始まったタイの大洪水は、いまだに収まる様子がない。被害を受けた日系企業は自動車・電機など製造業を中心に400社を超えるという。今回の大洪水で、あらためて日本企業の海外進出と産業の空洞化が深く進行していることに驚かされた。日本国内の製造業の雇用者数は20年前に比べ、400万人近くも減少し、1千万人を下回った。東日本大震災と、このところの円高が企業の海外移転をさらに加速させている。TPP交渉開始を受け、日本の産業構造が大きな転換を迫られていることは間違いない。(か)

東海大学付属高輪台高等学校・中等部

TEL.03(3448)4011 FAX.03(3448)4020 ホームページ:<http://www.takanawadai.tokai.ed.jp/>